

109 明治時代 重工業の形成

1885 最大の海運会社 **日本郵船** 設立

三菱が共同運輸を合併してできた戦前最大の海運会社で、世界中に航路を張り巡らしました。1893年には原料綿花を輸入するためのインドボンベイ航路を開設し、イギリス海運会社との競争に勝ちました。

1896年 **造船奨励法**、航海奨励法

日清戦争の反省で、戦争のときに徴用して輸送船などに利用できるように、民間船も鉄鋼船である必要があるため、奨励金を出して民間にも鉄鋼船の普及を奨励しました。

1897年 **貨幣法** 制定(1円を金0.75gと制定)

下関条約の賠償金をもとに悲願の金本位制が確立です。

1897年 **横浜正金銀行**

外国為替や貿易金融を専門に行う銀行を設立しました。

1897年 **日本勧業銀行**

軽工業に長期資金を供給するための銀行です。

1897年 **日本興業銀行**

重工業に長期資金を供給するための銀行です。

1897年 **農工銀行**

北海道を除く各府県に1行ずつ設立された長期資金供給のための銀行です。

1897年 **台湾銀行**

台湾の発券銀行です。台湾では日本銀行券ではない独自の紙幣を流通させました。台湾が不況になっても日本銀行券の信用を動揺させないためです。

1881年 **日本鉄道会社**

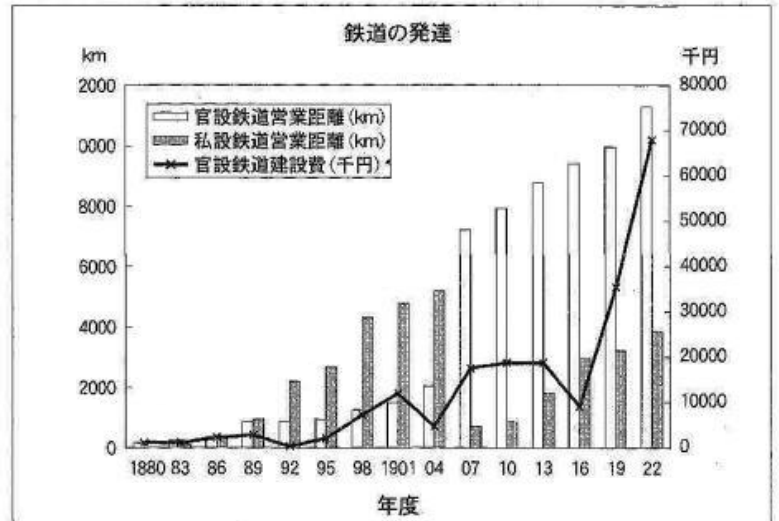
秩禄処分のときに莫大な金禄公債を手にした旧大名・旧公家の華族たちの資金をもとに、政府・各府県の保護を得て設立された最大の民間私鉄会社です。栃木県の両毛線などを作りました。

1904~1905年 日露戦争

東海道線を除くと国鉄がほとんどなく、我が国の鉄道は当初は民間鉄道主体で整備されたため、日露戦争時に兵員輸送などで苦勞、鉄道国有化の必要性が指摘されました。

1906年 **鉄道国有法**

日露戦争後、西園寺公望内閣は、民間鉄道17社を買収して国有化しました。



注) 植民地(台湾・朝鮮・南樺太)の鉄道は含まない。

1897年 **八幡製鉄所** 起工

日清戦争の賠償金をもとに、中国大陸の大冶鉄山(だいやてつざん)の鉄鉱石と北九州の筑豊炭田(ちくほうたんでん)の石炭を原料として1901年に操業開始しました。しかし、まだ国内の鋼材自給は明治時代には達成できず、日本の重工業の発展にはまだまだ苦難がありました。

1906年 **日本製鋼所** (北海道室蘭)

実は製鉄できません。だから製鉄所とは呼べないので製鋼所といいます。現代世界でも製鉄所のほうが製鋼所より格が上です。日本製鋼所は戦前最大の武器製造工場です。この日本製鋼所は、同じ1906年の鉄道国有法で私鉄経営者が鉄道を政府に売却して得た資金で作られました。

1906年 **池貝鉄工所**

機械を作る機械を工作機械といいます。工作機械の代表が旋盤です。このアメリカ式旋盤を最初に国産化に成功したのが池貝鉄工所です。今も活躍している会社ですよ。

三井は**三池炭鉱**、三菱は**高島炭鉱**をはじめとして多角的経営を行う **コンツェルン**

形態を整え、政商から財閥となりました。カタカナで財閥をコンツェルンといいます。

日本経済における**植民地の役割**の増大

満州… **綿布** 輸出市場

金肥である **大豆粕** の輸入先

朝鮮… **綿布** 移出市場、

朝鮮米 の日本本土供給地

台湾… **台湾米** の日本本土供給地

原料糖 の供給地

江戸時代までと違って、日本人の食生活に白米と砂糖が一般化しました。砂糖は高級品でなくなりました。